

【行事予定】

・日本合氣道普及連盟・指導者研修会

・日時：2025/11/29(土) 12:30～16:00

・場所：普及連盟本部道場（阿蘇市狩尾1564-1）

・内容：指導…野口館長、本多館長 ※参加者は館長及び指導者クラス4名まで

・終了後は忘年会、宿泊を行います（翌日（11/30(日)）現地解散）

場所：阿蘇プラザホテル（参加費：15,000円）

なお、指導者研修会の関係で北星館の11/30(日)の稽古はお休みします。

会員投稿 吉田さんの投稿です。

合氣道北星館の武器技として使われるものは、短刀、木剣、杖です。

合氣道の開祖、植芝盛平翁は「合氣道は体術だけではない、剣を持てば合氣剣、杖をもてば合氣杖となる」といわれたそうです。

このことから他の武道や武術の多種多様な武器を使った合気〇〇といった合氣道の武器技もありではないかと思っているところです。

そうゆうことで、今回は武器技で使えそうな日本と中国の武器をいくつか紹介します。

ちなみに中国拳法では武器とは呼ばず「兵器」と呼びます。

(1) 刀剣



日本では日本刀を示すことが多く、刀も剣も同じ意味合いで使っていますが、中国拳法では剣(つるぎ)と刀(とう)に分かれています。

←中国拳法の剣(つるぎ)

←日本の木刀(大刀サイズ 101.5cm)



←中国拳法の刀(とう)※これは木製です

「つるぎ」は両刃で真っ直ぐな形状で重心は手元にあり、刀(とう)は片刃で反りがあり、重心が先端にあります。

「つるぎ」と「とう」を使うための操作方法は少し異なります。どちらも突く、切るはできますが、「つるぎ」は狙いすまして突き刺すイメージがあり、「とう」は振り回して切る、叩くといったイメージがあります。

日本刀は「つるぎ」と「とう」の両方の役割を併せ持つ優れものという感じがしています。

日本刀の詳細は書籍等も多いのでそちらを参照していただければと思います。

(2) 短刀・短剣

短い武器としては、十手、小太刀、短棒などいろいろとありますが、合氣道は短剣技が有ります。短剣の刀身は1尺（約30.3cm）ぐらいです。合氣道の演武では短剣技をよくやりますが、剣や杖といった長物より扱いやすく、武器を持った状態での受け身も取りやすいです。また、「武器は手の延長」といった感覚がつかみやすいようです。

木製の短剣も体にあたれば痛いですし、ケガもします。ちなみに短剣の先に銀紙をまいて刃物らしくすると、捌く側は緊張するらしく、動きが硬くなるといった話も耳にします。

ついでに小太刀についてですが、長さは一般的に2尺（約60.6cm）前後で、1尺7寸（約51.5cm）から2尺（約60.6cm）の範囲が多いとされます。木剣より短く、短剣より長いというところです。日本剣道形には小太刀の部があり、四段以上の昇段審査では太刀の形と合わせて必須だそうです。

### (3) 杖・棒

棒(ぼう)や杖(じょう)は昔から応用が効く武器で「突かば槍、払えば薙刀、持たば太刀」などと言われています。棒は6尺(約180cm)、杖は4尺2寸1分(約128cm)と長さが異なります。

棒の方が長いので、杖とは違う操作方法について今度調べてみようかと思います。

杖道という武道がありますが、合気道の杖技とは少し違うところがありますね。

中国拳法では棍(こん)という棒状の兵器があります。「少林寺といえば棍」と有名ですが、少林寺関連の映画では、棍(こん)以外の兵器も多く見られました。

「こん」は触ったことはありませんが、以前、太極拳の表演会で合気道の杖の形をやるとなつたところ、杖を見た太極拳の先生から、床は叩かないでくれと言わされたことがあります。動画などで地面を叩いているイメージが強いからでしょうね。

### (4) その他（合気道北星館では未使用）

武術で使う武器は、世界中で多種多様なものがあり、ネットで情報を得ることができます。  
調べたものの中からいくつか紹介します。

#### ・槍

日本の戦国時代の槍ですが、歩兵用の「数槍(かずやり)」は454.5~636.3cm、大名クラスの武士が使う「持槍(もちやり)」は272.7cm以下だったそうです。

中国武術で槍は「百兵の王」というぐらい重要視されているそうです。

Youtubeで見た動画では長さが2~3mのもの(家庭用物干し竿と同じぐらいの長さ)、中には4m以上のものもありました。得物が長い分、遠心力が強くなり扱いが難しそうですが、これを振り回せるように鍛錬していますね。

#### ・薙刀

見た目でいえば棒の先に片刃で反りがある刀をつけたものに見えます。

日本では女性が使う武器というイメージですが、平安時代から南北朝時代にかけて、男性が使用していたそうです。武藏坊弁慶も薙刀を振るっていますね。

三国志の关羽が使用していた「青龍偃月刀(せいりゅうえんげつとう)」は中国の大刀の一種で、薙刀に似た柄の長い武器ですが、刃の部分がより幅広で大きかったそうです。

太極拳にも「春秋大刀(しゅんじゅうだいとう)」という大きな薙刀に似た兵器がありますが、手先で扱うことはとてもできないので、体全体を使う必要があります。

槍、薙刀ともに突き、切り、払いなどいろいろな操作はできるでしょうが、個人的には槍は突き、薙刀は払いが主体とみています。

#### ・扇

短い武器として興味があるのが鉄扇(てっせん)です。長さは「一尺」(約30cm)が代表的なサイズで、他にも「八寸」(約24cm)、「七寸」(約21cm)、「六寸」(約18cm)など様々です。

鉄扇(てっせん)は、昔、武士が刀を持ち込めない場所において、見た目が普通の扇子のため「武器ではない」という体で持ち込まれていたそうです。通常の扇子が木や竹の骨で作られていますが、鉄扇は骨組み(または全体)が鉄でできており、いざというときには攻撃や防御に使えたのでしょうか。鉄扇術は大東流の書籍等でみたこともあります。

中国拳法で使われるものは「おうぎ」です。長さは約34cmくらいです。鉄扇術をやる人少ないですが、扇(おうぎ)は太極拳の一種としてカルチャーセンター等でやる人が大勢います。

いろいろな武器を使う合気道の技を考えてみるのもおもしろそうですね。

## 編集後記

最近は「四季」ではなく「二季」と言われたりします。11月というのに25度を超える夏日があったり、寒暖差が激しかったりと高齢者でなくとも体調管理が難しい今日この頃です。

北星館の会員の方々もこのような環境の中、稽古に励んでいらっしゃるのですが、最近、日曜日の稽古が休みになることが続き、会員の皆様にはご迷惑おかしております。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。